

新民主主義社会における金利の性格

武 藤 守 一

はし が き

昨年十月、国慶節に招かれて約一カ月ほど中国の各地を視察する機会に恵まれたが、その時に感じたことは、中国の経済建設五カ年計画が予想以上に着実に進展しているということであつた。見たかぎり聞いたかぎりの人々は、労働者・農民はもちろんのこと、小商業者も中小企業者も資本家も、毛沢東主席を信頼し、建設に協力している姿を見た。中国の現状を日本と比較すれば、及ばないところが多いのは事実であるが、解放前の中国と比較すれば、驚くべき発展の跡を否定

することは出来ない、

ある人々は、それは強制の結果だ、そこには自由がない、独裁権力が支配していると非難する。しかしながら、過去における限りない圧迫と苦痛から解放された喜びに浸つている中国の大衆にとつて、その非難は理解し得ないであろう。彼等は現在の解放を勝ちとるために、百年の長きにわたる極めて苦しい反封建主義・反帝国主義の闘いを続けて来たことを忘れてはならないが、解放後の数年間という短期間に、今日の結果を見ようとは彼等自身にとつても予想し得なかつたほどではなからうか。いま彼等は確信に充ちている。彼

等はいまこそ後進国であることを知っているが、しかしやがて先進国に追いき追いつき得る自信に溢れている。それだからこそ彼等は実に謙虚であり、学習に専念し、建設に忙がしい。それを既成概念で独断的に非難してみても役に立たないばかりか、私にはそれらの人々の惨じめな心理を考えずにはいられなかつた。

どうして毛沢東主席を中心とする現政権に、中国の人民大衆が信頼し協力しているか、労働者や貧農については誰も理解は容易である。しかし富農や商工業者や資本家までがどうして協力しているかを理解することは誰にでも出来ることではない。それについては多くのことが語られねばならない。

しかし、ここでは金利の問題のみに限つてみて、旧中国において四大家族・官僚資本・軍閥・地主のみが有利な立場にあつて、それ以外の民族資本家をも含めたすべての人民大衆は高利貸の収奪にさらされていたのであつた。ところが現在は事情が全く異なり、金

利は引下げられて、この点だけでも経営は非常に健全となつた、そこから勤労意欲・生産意欲が急速に昂つて来たのであつた。

解放後における金利の引下げは、ただ生産意欲を刺激しただけではない。異つた対象に対しては異つた金融政策が採られ、それによつて社会主義工業化と農業合作化が意図されている。ところでそのようなことが行われ得るのは、中国が新民主主義社会であるからであり、そこでは貸付資本はすでに資本主義社会におけるとは異つた性格をもち、したがつて利子もまた資本主義社会におけるものとは変質したものとなつてゐるからに外ならない。新民主主義社会としての中国における利子問題は大いに注目すべき問題をもつてゐる。

これらの問題を探り上げた論文として、いまここに紹介しようとするのは、楊培新氏の「關於我國的利率問題」である。この論文は最初一九五五年一〇月四日の「人民日報」紙上に掲載されたのであつたが、そ

の後多少の補筆がなされて「中国金融」（一九五五年第二〇期）に転載された。筆者はそれを「新華月報」（一九五五年一一号）から訳出したのである。原文には何らの見出しもなく書き流されているが、便宜上これを「旧中国における金利の性格」と「新中国における金利の性格」の二節に分け、さらにそれをいくつかに細分して見出しを書入れて紹介することにした。

一 旧中国における金利の性格

1 旧中国の金利と新中国の金利 金利の性質と作用は、中華人民共和国の成立以来、根本的な変化が起つた。旧中国の金利は、中国の四大家族・軍閥・官僚・地主が資金を集め・内戦を行い・財富を積み・人民を収奪する一つの高利貸的なものであつた。しかるに新中国の金利は、中国人民の集積した資金をもつて、国家的社会主義工業化と農業・手工業・資本主義商業の社会主義改造を支援し、企業の独立採算性を鞏固

にし、資金の累積を急速にする一つの重要な経済的武器である。

2 都市の金利 旧中国においては金利は常に頗る高い水準を保つていた。抗日戦争前において、都市銀行の貸出利率の平均は年利一〇%ないし一六%（すなわち銀行から百元借りると毎年十元ないし十六元の利息を払う）であつた。社会調査所が一九三三年に行つた調査によると、南方七省の紡績会社の銀行からの借入利率は、上海では最高一二%、最低六%であり、武漢では最高一二%、最低八%であり、江蘇省太倉・浙江省寧波蕭山・山東省濟南青島・江西省九江・湖南省長沙などでは最高二〇%、最低六名であつた。内陸地方たとえば重慶などでは年利は一般に一四%以上であつた。銀行の預金利率もまた比較的が高く、銀行の特別当座預金（あるいは貯蓄預金）の年利は一般に四%ないし五%であり、一年以上の定期預金の年利は七・五%であつた。このような金利水準は一般資本主義國

家よりも遙かに高い。第二次世界大戦前、各資本主義國家における中央銀行の主要貸出方式としての割引貸出利率は、ギリシヤ六%、イタリア四・五%、ドイツ四%、日本三・二%、フランス三%、イギリス二%、スイス一・五%、アメリカ一%であつた。

3 農村の金利 旧中国の農村には、さらに驚くべき高利貸が盛んに行われていた。「錢三分」、「穀五分」が最も普通の利息であつて、高い利息としては、いわゆる「大加一」、「集集翻」、「驢打滾」などがあつた。

たとえば福建省閩侯四区青圃村における地主の高利貸のごときは、はざかい期に農民に貸出し、稲の收穫期に回収するのであるが、百斤につき八十斤の利息をとるのであつた。山東省濰県柴家莊における地主の麥貸付は、一斗の麥を貸付け一斗五斤ないし二斗を回収するのであつた。江蘇省川沙県横沙島における地主の貸出利息は一〇〇%ないし一二〇%であつた。

4 高い金利の基盤 旧中国において金利はどうし

新民主主義社会における金利の性格 (武藤)

て長い間高い水準を保つたのであろうか。これは国民党反動政府が旧中国における銀行貸出の主要対象であり、それは政治借款と公債発行の方式をとり、極めて高利の銀行借入れ資金をもつて内戦を支えて来たからである。たとえば「銀行周报」四九二期に指摘しているごとく「昨年の政府借款は、二三%の高利となり、金融機関の資金はほとんどこの一角に固定した」とあることから知られるごとく、当時の政治借款の年利率は二〇%ないし三〇%の高さであつた。国民党反動政府の発行した公債の名義上の利息は年利六%ないし八%であつたが、公債の現金収入が五割ないし六割(五十元ないし六十元だけの現金収入に対し、百元の公債証書を支給する)であつたので、五十元ないし六十元につき利息六元ないし八元を取得するのである。そのうち籤選償還のものは、六十元出して元本百元を取得し得るのである。結局、公債の実際上の利息は三〇%ないし四〇%であつた。

かくして一般社会における利子率の全般的昂騰が生じたのである。マルクス主義政治経済学の利子理論についてみるに、利子は利潤の一部分であり、利子率は利潤率によつて決定され、さらに貸付資本の需給状態によつて自動的に調節されて行くのである。旧中国の利子率は、中国四大家族の内戦中における巨大な利潤率によつて決められた。陳伯達同志は指摘している。

中国四大家族の「財富の集積は、戦争と完全に不可分のものである。」「彼等は内戦の持続と拡大により、さらに大きな財富を追求しようとした。」と。内戦中、中国の四大家族は掠奪の範圍を拡大し、ほしほしに戦闘を続けることによつて巨額の利潤を獲得した。銀行貸付の主要対象は商工業ではなくして、中国四大家族であり、かくして利子率を決定したものは資本主義商工業の利潤率ではなく、この中国四大家族が内戦中に得た巨額の利潤率よりも遙かに高いものであった。すなわち中国四大家族はたえず内戦を続け、たえず資金

を集め、かくして長期貸付資本の需要が供給を超過する現象が生じ、これがまた利子率の昂騰を促進したのであった。

5 高金利で利益を得た者は誰か

このような利子率の昂騰現象は誰に有利であつたか。主として中国四大家族・軍閥・官僚・地主に有利であつた。銀行貸出利率のこのような昂騰により、一般資本主義商工業はこのような資金を借りず、かくしてこの銀行資金はただ四大家族が内戦を発動し、地盤を奪取し、巨額の利潤を追求する資本として運用されたのであつた。同時に旧中国の金融資本は長い間公債投機と政治借款に専念した。預金利子の高いことによつて、利益を得たものは誰か。戦前銀行預金の最も多かつたものは決して商工業者ではなくして、いわゆる私人と私人団体であつた。いわゆる私人の、主要なるものは中国官僚資本家階級・軍閥・官僚・地主であつた。

彼等は收奪したものを銀行に預金し、それは時とし

て毎回数十万円ないし数百万円であつた。農村から都市に逃亡した地主もまた、歴代にわたつて農民を收奪して累積した財富を銀行に預金した。いわゆる私人団体の預金の主要なるものは軍閥官僚の公金預金であつた。それらは国外の銀行預金ではただ年一%ないし二%しか利子が得られないのに、国内の預金では年七%ないし七・五%前後の利息が得られた。旧中国の金融資本は實際上官僚資本家階級・軍閥・官僚・地主の、「私人の貯蓄」と「公金預金」の集中からはじまり、それが四大家族による国内戦争の発動を支持し、それによつて巨額の利潤を追求し、その後で四大家族のおこぼれが分配されるのを支持した。たとえば劉少奇同志が一九五〇年の北京における五一労働節祝賀幹部大会の席上での演説で指摘している如く、金融業とは、「高利貸付と空売買を目的とする金融業」であり「過去において帝国主義的・封建主義的・官僚主義的企業に奉仕」するものであつた。

新民主主義社会における金利の性格（武藤）

6 高金利で不利だつたもの このような金利の昂

騰は誰に不利であつたか。それは国民経済に不利であり、生産力の發展に不利であり、多数の人民に不利であつた。都市における利率の昂騰は、民族資本の商業に窒息的な作用を及ぼした。中国における日本の紡績工場は日本の銀行から資金を借り、毎年僅かに六%ないし七%の利息を払つた。しかるに中国の紡績工場が銀行から資金を借れば一〇%以上の利息を払い、競争において不利な地位にあつた。中国紡績連合会は一九二七年の宣言において述べている、「国内金融は貸出利率が高く、会社は辛苦經營して銀行錢莊の借入金利子を払おうと努力しても、なお足らず、元本利子が日に日に累積し、ただ工場を売り払う方法があるだけである」と。都市における利率の昂騰はさらに農村における高利貸付の發展を助長した。農民は重税の收奪を受け、高利貸の利息は三〇%・五〇%・八〇%・一〇〇%で、甚だし

いものは一二〇%にも上り、これは農業生産の負担し得ないものであり、その結果として必然的に農民の破産を促進するものであつた。一人の農民が一旦借金をすれば利に利を重ねて三四年ならずして、その土地・家屋は地主に掠奪されてしまう。都市の高利貸（印子錢など）と質屋は、同様にして都市の貧民に対し残酷な剝奪を行つた。かくして高金利は、人民大衆に不利であつた。

7 抗日戦争と高金利 抗日戦争の開始後、旧中国の金利はさらに畸形的な高騰を示した。一九四八年国民党反动政府が金円券を發行して間もなく、利息は月一二〇%に達し、最高時には月六〇〇%にまで達した。これは国民党反动政治における軍事・政治・経済・貨幣の危機がその極に達し、総崩潰に瀕したことを示すものであつた。国民党反动政府は一九四二年から、意識的に一貫して市場利率の上昇を誘導するとともに、民族資本家階級の経営する企業に対して高金利政策を

採ることにより、民族資本家階級の破産を促し、中国官僚資本主義の拡張を有利ならしめようとした。

8 高金利の結果

旧中国における金利の昂騰は、中国官僚資本家階級と軍閥・官僚・地主が工場・礦山・土地を掌握し、かつ財政と金融を掌握し、これを彼等の利益に従属せしめた結果であつた。それは同時に金利の問題において、中国官僚資本主義・封建主義の政治と人民の利益とが根本的に対立していることを暴露しており、さらに中国人民は必ずや中国官僚資本主義と封建主義の統治を顛覆し、彼等の生産手段所有制を取消し、生産を窒息させる高利貸を消滅すること、これらの問題を順調に解決し得ることを暴露している。

二 新中国における金利の性格

1 人民政府の金利政策

中華人民共和国の成立以來、金利は次第に低下し始めた。われわれが官僚資本

の工場・礦山・銀行機構を没收し、地主の土地を没收し、物価の上昇を抑制したことによつて、都市・農村における高利貸の存在する社会経済的基礎は消滅してしまつた。それと同時に、人民国家の指導の下に、国家銀行が成立し、信用合作社が発展し、資本主義金融業を管理し、全国の金融と物価は未だかつてない安定を実現し、国家は着々として金利の低下を指導する可能性を得た。わが国の金利について、党と国家は過渡期における総路線に基き、漸次低下させること、および状況に応じて対処するという原則を採つた。

かくして利率は次第に低下し、それは工業・農業・手工業生産と商品流通の発展を必ず促進するであろうし、国家的社会主義工業化と農業の合作化を必ず実現せしめるであろう。国家は必ず状況に応じて対処し、異つた経済成分と異つた階級に対しては異つた政策を示すであろう。社会主義企業に対しては、貸付利率は当然に低く、それによつてほんとうに独立採算制を推

行する単位として認められるよう激励し（たとえば比較的低い決算貸付を行うなど）、経営の宜しくない単位を督促した（たとえば期限を越えた貸付には利息一〇%を加えるなど）。農民・手工業者に対する貸付には、当然に比較的低い利息を規定し、それによつて工農連合政策を貫徹し、農業と手工業生産の発展を鼓舞した。農業生産合作社と互助組に対する貸付利息は個人農民よりも低く規定し、設備貸付の利息は一般生産貸付より低くし、農業・手工業の社会主義改造と次第に新しい設備を採用することを奨励した。貧農を支援するため、極貧困者に対する貸付利息は少し低く規定した。貧農が積極的に農業生産合作社に参加することを支援するため、利息の非常に低い貧農合作基金貸付を規定した。資本主義金融業を指導し、全体として次第に貸付利率が低下するよう努力し、商工業の正当なる経営を鼓舞した。公私合営企業に対する貸付利率は私営企業に対する貸付利率よりも当然に低くし、資本主義商

工業の社会主義改造を奨励した。貯蓄に対してはやや高い利息を規定し、国家は人民の貯蓄に対する奨励の物質的基盤を与えた。

2 低金利政策

国家銀行は一貫して金利の低下を指導している。北京・天津は解放の当初、市場金利が比較的高く、貸付利息は月六九%であつたが、人民銀行が国营企業に対して非常に低い預金貸付利率を、資本主義商工業に対しても比較的に低い預金貸付利率を規定したので、それは市場金利の低下に影響を及ぼした。一九五〇年三月の全国的統一財政経済工作と物価騰貴の抑制後は、人民銀行が資本主義金融業を指導ならびに督促して、急速かつ確実に金利を低下させ、物価の安定を鞏固にした。一九五三年六月には全国的な「三反」「五反」運動の成功という基礎の上に、再び金利を引下げ、市場の活動に適應した。一九五三年一〇月、党は過渡期の総路線公布以後、社会主義企業に対する貸付金利を引下げた。一九五五年一〇月第一次

五カ年計画の公布以後、国家銀行は全面的に貸付・預金・貯蓄の利率を引下げ、引続いて国家的社会主義工業化を支援し、来るべき全国農業合作化の高潮を迎えるべく、節約を励行し、企業の独立採算制を鞏固にするよう努力したのであつた。

わが国の金利は過去六カ年の間引き続いて低下し、すでに市場金利は六九%の水準から、現在は月一%以下の水準にまで下り、旧中国の抗日戦争以前の時期および通貨膨脹の時期から残されて来た高利貸的な痕跡を徹底的に取除いてしまつた。

3 社会主義企業に対する貸付利率

社会主義企業に対する貸付と預金の利率は、何よりもまず第一に、比較的低く改訂され、六年このかたも真先に引下げられた。国营工業に対する貸付利率は一九四九年五月には月六%ないし一二%となり、このたびの調整後は一般貸付利率が月〇・四八%となり、決算貸付が月〇・三%となつた。国营および合作社営貿易は、一九四九

年五月には月利七・五%から一・五%であつたが、現在ではすでに一般貸付利率が月〇・六%となり、決算貸付が月〇・三%となつた。社会主義企業の流動資金の大部分は国営銀行から貸付けるもので、国家銀行は大量の低利貸付を行い、社会主義企業は資金供給面において数量的にもまた条件的にも優越的な地位に立ち、

社会主義企業の発展と社会主義経済の優勢を益々鞏固にしている。このたびの金利引下げは、社会主義企業に数億元の利子支出を節約させ製品の原価を下げ、商品の流通費用を少なくし、資金の累積を早め、企業の独立採算制を鞏固にする有力な要素であつた。

4 農村に対する貸付金利

農村に対する貸付利率は、農民が効果的に高利貸を打倒し、農業生産を進展させることを支援するため、国家銀行は抗日戦争の時から、農村において低利の農業貸付を行つていた。国家銀行の農業貸付利率は一貫して極めて低く、資本主義商工業に対する貸付利率よりも低く、甚だしきに至

つては都市の貯蓄利率よりも低い。一九五二年六月、一般農業貸付利息は月一%ないし一・五%であり、短期回転性の貸付利率は月一・五%ないし二・四%であつた。

このたびの国家銀行による農業生産合作社に対する低利貸利率は月〇・六%となり、貧農合作基金貸付は月〇・四%となり、個人農民に対する生産貸は月〇・九%となり、農業互助組および設備貸付は月〇・七五%、困難の非常に大きい極貧農家と被災区・老区少数民族地区の農家・軍属・烈士の家族に対する貸付は月〇・七五%となつた。信用合作社の金利もまた非常に低くなつた。国家銀行は区および鎮に今や二万の營業所をもとうとしており、信用合作社は発展してすでに十五万以上となり、恐らく今年の冬には利率は大きく下り、明年春の農村には数十億元の低利貸付が行われるであろうが、これは農業合作化の昂揚を迎えるための重要な動きである。農業生産合作社への大量かつ低

利な生産貸付・貧農合作基金貸付・設備貸付は、農業生産合作社が採用する新しい現代的な農具と技術および農業生産の発展に対して有力な支援を与えるであろう。同時に農村における高利貸は殲滅的な打撃を受けるであろうし、信用合作社は貧困農民の衷心からの擁護を受け、組織上および業務上鞏固な一歩を進めることであらう。

5 手工業に対する貸付金利 このたび手工業生産合作社に対する貸付利息もまた低下して月〇・四八％となり、手工業供給生産合作社と生産小組に対しては月〇・六％となり、個人手工業に対する貸付は月〇・九％となった。独立小売商業者に対する貸付利率は〇・九％となった。手工業生産を發展させ、手工業を社会主義改造に進める政策が貫徹されている。

6 資本主義的商工業に対する金利 資本主義商工業に対する貸付利率は、資本主義金融業の漸次的改造と結合しつつ、次第に低下した。北京・天津の解放当

初における市場金利は、特別当座預金が月利三九％ないし四〇％であり、貸出月利は六九％であつた。人民銀行は利率を引下げ、特別当座預金は月利三六％ないし一八％、貸付は月利八％ないし三九％となり、それは市場金利の低下に漸次影響し始め、投機に打撃を与え、資本主義商工業の正当な経営を鼓舞した。一九五〇年八月以後、国家銀行と私営銀行および錢莊の資本主義商工業に対する預金貸付利率は次第に統一し始めた。当時私営工業に対する貸付は月利〇・九九％であり、私営商業（都市の小売商・質屋を含む）に対する貸付は月利一・三五％であつた。公私合営工業に対する貸付は月利〇・六九％となり、公私合営商業に対する貸付は月利〇・八一％となった。資本主義商工業に対する貸付利率の漸次的低下は、資本主義商工業の營業に有利であり、国家の経済と人民の生活に有益であり、さらに物価の安定に有利である。公私合営企業に対する貸付利率が比較的に低いことは、資本主義商工業の

社会主義改造を奨励するであらう。

7 貯蓄の利率

貯蓄の利率については、国家は貯蓄精神を奨励するために、利率の上で適当な優待を与えている。物価がなお不安定な時期には、国家銀行は折実儲蓄を行い、物価が安定に向つて以後は保本保値儲蓄を行い、財政経済状況が根本的に好転した以後はまた貨幣貯蓄を行った。この調整以後の貯蓄利率は、特別当座預金が月利〇・二四%、三カ月定期が月利〇・四二%、六カ月以上の定期が月利〇・五一%、一年以上が月利〇・六六%である。現在の定期預金の利率は、国営工業や商業に対する貸付利率または農業生産合作社に対する貸付利率に比較して高いが、そこに国家が一貫して物質上の利益によつて貯蓄を奨励しているのを見ることが出来る。

華僑の送金貯金に対して比較的利率を優待し、三年以上のものは年利八・五%と定め五年以上のものは年利九%と定めた。第一次五カ年計画は「全国の人民

大衆の中に、質樸な気風を提唱し、公共の財産を愛護し、貯蓄の励行と公債の購入」を要求している。貯蓄は人民が資金面から国家的社会主義工業化と農業合作化を支持する一つの方法であるから、人民は必ずや高度の愛国的情熱をもつて、貯蓄に勇躍して参加するであらう。

8 低金利と社会主義建設

わが国における金利の漸次的低下は、社会主義工業化と農業合作化に有利であり、さらに社会主義建設の資金蓄積に有利である。社会主義建設の資金蓄積は不断の労働生産性向上および不断の製品原価と流通費用の低下によるのであるが、金利の低下こそ製品原価と流通費の低下のための有力な要素である。金利の低下は、工業・農業・手工業における生産の迅速なる発展、商品流通の拡大、貨幣制度の鞏固化、銀行信用貸付制度の発展の基礎の上に進むものである。イカニコフは「ソ同盟の貨幣流通と信用」において、社会主義制度の下における金利低下の

法則を指摘して「金利の低下は商品の生産と分配と流通の不断の増加・商品と労務価格の低下・ソヴェートループルの購買力上昇および貸付投資の増加が基礎である。利子は生産と分配と流通の費用の一要素であるから、それらの費用はその他の各項目の要素が同時に低下することを必要とする」と。この法則はわが国に對してもまた適用されるものである。生産と商品流通の拡大により、銀行を通する預金貸付は必ず急速に増加し、銀行の費用率は相対的に低下し、それは銀行の利率低下の基礎となり得る。貨幣購買力の安定もまた貯蓄および預金利率の漸次的低下にとつて必要条件である。利率の低下は常に製品原価と流通費用の低下に有利であり、社会主義建設のために資金を蓄積し、生産の拡大と商品の流通を前進させ、人民幣の価値を鞏固にするのに有利である。

9 新民主主義社会における金利の性格 わが国の金利がこのように低下し得た理由は、金利の性格と作

用とがすでに根本的な変化を遂げていたからである。旧中国の金利は貸付資本の価格であり、利潤の一部分であり、この利潤率と市場における貸付資本に対する需結の影響を受ける。しかるに新中国においては銀行の集中した資金はもはや貸付資本ではなく、国家の予算資金・社会主義企業の余裕金および人民の貯蓄であり（資本主義商工業の預金の比重は比較的に小さい）国家銀行は貸付資本を売買する仲介人ではなくして、国家が計画的に資金の分配を行う一機関である。すでに資本主義商工業と金融業は次第に社会主義改造を受けつつあり、独立的自発的に調整する金融市場はすでになく、資本主義社会における利率変動の法則はすでにほとんど全く作用を失っている。スターリンはかつて指摘していつた、「国家は超過の蓄積資金を絶対に分散せず、合作社および国营の信用機関に集中し、さらに国家は公債を発行し、それらを工業の需要に供するようになければならない。預金者は当然それによつ

て一定の利息を得なければならぬ」と（ソ同盟の経済状況と党の政策）。金利の作用は企業の上べての余裕金を速やかに銀行に預金するよう鼓舞し、さらに企業に節約を促して銀行貸付に用いさせることである。人民の貯蓄に対して、利子は一つの物質的奨励である。預金と貸付との間の差額を規定して、国家銀行と合作社の費用とし、その業務の発展と費用の節約を促す。銀行は資本家階級の規制を脱却し、利子は再び利潤の分けまえの性質をもたないこと、これが金利の低下し得た根本的原因である。

10 結語 かくして、金利をこのような一つの現実的具体的な経済問題として、そこにわが国の人民民主主義革命と社会主義革命の偉大な作用とわが国の人民民主制度の優越性とを、われわれは見ることが出来るのである。実に人民民主革命の勝利と社会主義革命の進行とは、ただ単に中国における人民（特に農民と手工業者）を抑圧した最大の 高利貸を除去したのみならず、

ず、農工業生産の発展の一つの束縛をも除去したのである。実にわが国人民民主制度の優越性は、金利を次に低下せしめたのみならず、わが国における社会主義建設と社会主義改造の一つの力となつてゐる。